

〔倭名類聚抄十七〕芋附四聲字苑云、芋子遇反、和名以毛、葉似荷、其根可食之。唐韻云、軟音映、和名以毛。一云以毛。○加良、一云以毛。

〔之俗二字用李〕芋莖也。

〔伊呂波字類抄植伊〕

物蹲鷗

イモカシラ

魁芋頭也

イモガラ

蘇

イモガラ

芋莖也

イモガラ

芋梗芋莖也

イモガラ

軟芋莖也

〔下學集飲食〕蹲鷗

イモガシラ

頭故云爾

イモガラ

家芋莖

イモガラ

跋

イモガラ

芋莖也

イモガラ

順和名

イモガラ

〔易林本節用集伊〕

木蹲鷗

イモガシラ

魁芋頭也

イモガラ

蘇

イモガラ

芋莖也

イモガラ

芋莖也

イモガラ

〔和爾雅菜蔬〕芋一名

芋魁芋頭也

イモガシラ

跋陽國志

跋鷗貨殖傳

イモガラ

芋莖也

イモガラ

芋莖也

イモガラ

芋莖也

〔書言字考節用集生〕

芋音虛一

芋魁指南芋頭也

イモガラ

跋陽國志

跋鷗花陽縣志

跋鷗汶山郡志

跋鷗安

イモガラ

芋莖也

イモガラ

〔大上膳御名之事〕女房ことば

一一も　　おいも　　まもとも

〔東雅穀十三〕芋イヘツイモ　倭名鈔に芋はイヘツイモ、軟はイモガラ、一つにイモシといふ、俗用芋柄字芋莖也と註せり、イモといふ義詳ならず、イヘは家也、イヘをもて呼ぶは、山芋に對しいふ也、ツは詞助也、今の如きイモといふは總名也、根をば子イモといひ、莖をばイモノクキといひ、其莖を乾したるを、イモガラといふ事なり。

〔物類稱呼生植〕芋いも　駿河及美濃越後高田所在、又常陸にてば、と云、唐芋を遠州にて女芋と云、蓮芋、武州品川にて八ツがしらと云、又栗芋といふ所を、し、芋莖京にていもじといふ、東國にてすいきと云、これは諸國の通語なり、美濃尾張にてだつと云、奥州仙臺にてからどうと云、土佐日記いもしらめも齒がためもなき、かうやうの國也と云々、いもしはいもにて、しは助字成共云、

〔萬葉集十六〕有由縁井雜歌詠荷葉歌

〔蓮葉者如是許曾有物意吉麻呂之家在物者字毛之葉爾有之〕

〔本朝食鑑三柔滑〕芋和名以毛、或稱毛、今以閉都以毛、或稱三里以毛、